

## 分野別計画の審議における「(仮称)重点戦略」に関連した意見

## 【第1部会】(環境・アメニティ、都市基盤・交通、産業・経済)

NO	意見概要
1	「低炭素なまちづくり」は、都市基盤・交通などの他の分野にも関わる大事なキーワードである。
2	見沼田圃や水と緑の空間があり、都市だけの生活でなく農もある。心豊かに暮らせる次世代のライフスタイルを実現できるようなまちであることを強調してほしい。
3	さいたま市はハード面に加え、ヒト、モノ、コト、クオリティなどソフト面との総合力で見ると、良い資源がたくさんあって他市より優位性を持っているので、それらを総合化したものを計画に表せると他との差別化を図れる。
4	さいたま市には都市の生活だけでなく水や緑、農の要素もあって、次世代のライフスタイルを実現できるところが強みである。
5	障害者の雇用促進という視点を持って、民間企業で働ける環境づくりの視点を持つことはできないか。
6	学校教育と産業人材育成のための教育にはミスマッチがあるので、学校教育と連携してキャリア教育を進めていく視点を入れてほしい。
7	高齢化が進む中で、モビリティの問題を考える必要がある。
8	むやみに情報を発信するのではなく、まちをプロデュースすることが大事である。
9	大宮や浦和以外の駅周辺地域にいかに人を集めるか、いかに商店街を活性化するか課題である。
10	自転車利用推進の目的としては、二酸化炭素排出量削減などのグリーンイノベーションに加え、健康増進などライフイノベーションの側面も考えられる。
11	さいたまらしい優れたものをどこかで強調できるとよい。例えば、東京に近く開放的である、防災性に優れているなど。

## 【第2部会】(健康・福祉、教育・文化・スポーツ)

NO	意見概要
1	放課後児童クラブについては、単に児童を預かるだけでなく何をやっているかが大切で、しつけ・教育といった指導を充実できないかと感じている。
2	「子育てしやすい都市の実現」と掲げるからには、子どもを預けながら安心して働くことができるシステムが必要である。
3	住みやすいまち・さいたま市を目指すなら、待機児童の問題に重点を置いて、子どもを持つ若い人にとって魅力的な環境づくりを進めるべきである。
4	保育園に関しては、母親が就業している、いないに関わらず希望があれば入園できる仕組みがあればベストではないだろうか。
5	人口の増加に保育園の整備が追いつかない地域がみられる。両者のマッチングとともに、今後の保育園整備計画などをいち早く市民に周知する必要がある。
6	成果目標から見えてくる高齢者像に偏りがあるのではないか。高齢の方々の多様な生活像は必要ではないか。
7	地域の公園を拠点として、子どもと高齢者の心の交流が促進できないか。子どもや親世代の居場所にもなるし、高齢者の居場所ともなる。
8	子どものうちから、地域に参画していくことが大切である。ノーマライゼーション意識や、男女共同参画意識の醸成にも効果があるだろう。
9	義務教育における特別支援学級について、職員数の不足などにより十分な教育環境を得られていないと感じている。発達障害児への対応については、より充実した対応をすべきである。
10	「社会からの孤立化を防ぐため、家庭や学校、職場など～連携」とあるが、登校できない子どもなど、きめ細かな対応が必要である。
11	かかりつけ医の有無を重視すべきだと思う。介護などの最初の入口としても、頼りになる医師が身近にいる意義は大きい。
12	病床数が足りない現状は課題であるが、自宅で親を看取った経験から、訪問介護と訪問医療は本当にありがたいと感じる。今後は、在宅医療と看護がもっと身近になっていけば良いと思う。
13	小児医療の充実の子育てにとって大事なことであり、明記すべきである。
14	「連携して」というのはわかるが、学校はどこまで責任を持てばよいのか、という疑問を感じる事例を体験した。地域と家庭のさらなる努力があってもよいと感じている。
15	「スクールサポートネットワークの構築推進」とあるが、本来は学校教育の領域でもっと努力すべきで、足りない部分を地域が補うようにすべきと考える。
16	自殺や学校のいじめが問題になっているが、青少年の健全育成については、家庭教育の大切さや地域社会がどのように対処すべきかを議論する必要がある。
17	公民館を舞台とした、子ども、子育て中の親、シニアなどの縦の交流があってもよい。

## 【第3部会】(安全・生活基盤、交流・コミュニティ)

NO	意見概要
1	国や県だけでなく、大学や地域の事業者等と連携して防災対策に取り組んではいかがか。
2	防災面でも、男女共同参画の視点を入れることが望ましい。
3	災害時要援護者名簿については、民生委員や社会福祉協議会にも情報を提供して連携する必要がある。
4	災害時は企業や学校に留まることを、家庭でも確認してくださいと呼びかけてはいかがか。私立の学校でもこの方針を統一できると良い。
5	地震と洪水では避難方法が異なるので、きめ細かな対策が必要である。
6	小中学校に普及が進むマンホールトイレの中には、落下などの危険があるものがあるので、安全なものを設置してもらいたい
7	交通安全ボランティアは無償で働いている人も多いので、新たな担い手が育ちにくい現状がある。
8	高齢者の事故や自転車事故が多く、交通ルールやマナーが徹底されていない。学校以外に警察やボランティア、行政などが連携して取り組む必要がある。
9	男女共同参画社会の実現には、ワークライフバランスの視点を取り入れてはどうか。
10	中高年の拠り所づくりと地域活動を結び付け、活性化することが必要ではないか。
11	サロンのような小さな集まりを持つことやシルバー世代の活用、シャッター通りの活用、大学等と連携した居場所づくりなど、市民ワークショップの意見も参考にしてほしい。